南部蕃蝦夷地警備資料展覽會出品目録

市立函館図書館発行

733
185

733-185
1200501590088

733
185

昭和十二年六月

南部藩蝦夷地警備資料展覽會出品目錄

附　函館南部會寄贈南部藩鄉土資料目錄

市立函館圖書館

南部藩蝦夷地警備
資料展覽目錄

南部陣屋箱館詰藩士ノ法要ヲ營ミ
碑ヲ建テテ其ノ功ヲ旌表セラル
英靈地下ニ冥感セン
關係有志ノ御盡力ヲ厚ク謝ス
昭和十二年六月一日

伯爵 南部利英

昭和十二年六月

市立函館圖書館

昭和十二年六月 函館圖書館

733
185

箱館南部藩事蹟顯彰會同人等發起し、昭和十二年、函館市山背泊なる同藩士の墓塔を修築し、六月一日、その除幕式を擧げ、國下山高龍寺に法要を營む。又別に市立函館圖書館と共催して、同館に「南部藩蝦夷地警備資料展覽會」を開く、其の出品、百餘種數百點の多きに上る、即ち函館圖書館に所藏なきものは副本を作成し、今又其の展覽目錄を上梓して、蝦夷地に於ける同藩史實研究の一端に供すると共に、函館市長の祭詞を附して同藩活躍の梗概を示す。

祭詞

函館市山背泊、南部藩陣屋箱館詰藩士の墓域修築の工竣り、本日を卜して其の墓前に賽し、國華山高龍精舍に法要を嚴修し、以て不祀の靈を慰むる所あらんとす。

惟ふに、往昔松前蝦夷地の警備は、其の任松前藩に在りしと雖も、藩勢の微弱と、居住和人の稀薄とは、屢々內夷外寇の脅威を受け、南部津輕を始め、奥羽諸藩の來援を餘儀なくせしめたり。殊に南部津輕の兩藩にありては、古く寛文九年の蝦夷亂に兵を動かしてより、寛政度の前期幕領時代、及び、安政度の後期幕領時代共に箱館に牙營を設け、蝦夷各地に戍廻を分駐して、內外の患憂に備へ勳績の寔に大なるものあり。隨つてその戎役藩士の陣歿し、或は北地の瘴疫に侵され、空しく鬼籍に入りたる英靈亦尠からず。此故に、曩には盛岡藩主天保甲午の秋、特に藩使を遣はして碑を箱館高龍寺、實行寺並に泉澤なる大仙寺に建て、以て寛政より文政に亘る、蝦夷諸島遠戎の戰病死者を祀ること甚だ懇篤なるものありしと云ふ。然りと雖も安政より慶應に至る後期幕領時代に於て警備の重任に

膺せる是等諸靈に對しては、時偶々維新の變事に遭遇して、爾來未だ其の事あるを聞かざるなり。

而して、嘗つて南部陣屋と稱せる函館牙營の地は、今曙町壽町と稱して、人煙繁華の巷となり、その俤を留むるものなく、僅に南部坂の名に往時を偲ぶのみ。又當時、遠く家鄉を離れて箱館警備の任に當り、不幸不歸の客となりし諸士は、山背泊なる同藩の墓域に葬られたるが、春風秋雨こゝに七十年、墓塔空しく泥土に委し、境域徒らに民家に窄ぬられ、訪ふ者をして轉た荒凉を感ぜしむるものあり。

乃ち之を慨せる南部陣屋事蹟顯彰會の同人等、振つて墓域改修の擧に出で、今や漸く其の工成る。洵に近來の美事と謂はざる可からず。

今その法會に參じ感懷禁ずる能はず聊か所懷を陳べ、謹んで諸靈を祀ると云爾。

昭和十二年六月一日

函館市長　坂本森一

目次

伯爵南部家（盛岡市下小路）……九頁
新渡戸仙岳（盛岡市仙北組町）……十二頁
文部省維新史料編纂事務局（東京市）……十三頁
南部吉他（函館市五稜郭町）……十三頁
岩手縣立圖書館（盛岡市）……十四頁
阪牛祐直（小樽市入舟町）……十五頁
村田健次郎（盛岡市鷹匠小路）……十五頁
村田專三郎（函館市元町）……十五頁
市立函館圖書館出品目錄……二十頁
函館南部會寄贈圖書目錄……廿九頁

南部藩蝦夷地警備資料展覽會出品目錄

伯爵南部家所藏（盛岡市下小路）

一、南部藩記錄懸覺書　原　仙華二折横長帖　十冊

南部藩記錄懸覺書にして、主として藩中例月の行事、藩士の身分異動を記したるもの。卽ち蝦夷警衛の爲出張を命ぜられたる人名或は維新前後の藩内動搖の模樣等を覗ふを得。安政二年は正月より八月まで二冊三年は全二冊、明治元年全三冊、同二年全三冊の十冊。

二、蝦夷地松前御用留　原　美濃　九冊

寛政十一年正月より文政六年七月迄二十四ヶ年間南部藩の蝦夷地警衛の任に當れる當時の御用留。

三、箱館御留抜書　寫　半紙　一冊

寛政十一年より文政五年及安政二年より慶應二年迄の南部藩箱館詰の御用留より公邊及箱館役所より仰出御達並に伺、願、届、進贈其他の抜書。

四、下書　寫　美濃　一冊

文化四年六月より五年二月までの南部藩蝦夷地警衛に關する届書類。

五、上山公務日記抜書　原　半紙　二七冊

蝦夷地附御目付兼御留守居として安政四年四月より箱館に在勤し蝦夷警衛の衝に當れる上山半右衞門の勤中日記にして、慶應四年箱館引揚後明治十一年十二月迄を存す。惜むらくは第十四冊慶應四年一月より四月までを欠く。

六、蝦夷地警衛御人數江諸被仰出御法令被仰渡並壁書御制戒　寫　仙華二ツ折　一冊

安政二年藩老中、武者奉行其他より仰出の表記法令、制戒、誓詞の控。

七、蝦夷地御警衛並御領分海岸防禦爰許組立總御備配　寫　美濃　一冊

箱館詰東蝦夷地エトモ詰並城下表江相備置候後詰人數組立、蝦夷地御警衛並御領分海岸防禦自他總御備組御旗本自他御座備總手自他御備組武者分、海岸防禦別段御手當御備組手分、御式法、三令御相圖等を記す安政度警備のものなり。

八、蝦夷地書上　寫　半紙　三冊

南部藩蝦夷地持場中ヤムクシナイ、アフタ、尾札部村三場所書上にて、各村別の里程、戸口、産物、運上金高等を記載す。安政年間のもの。

九、箱館之圖　寫　折圖　一鋪

安政二年六月南部藩持場見分役見廻之節使用、見廻後書入。

一〇、箱館御陣屋の圖　寫　折圖　一鋪

安政二年再度取建南部藩箱館御陣屋の平面圖にして、仝三年三月上山半右衛門の手寫。

一一、箱館字水元曠野之内元陣屋地之圖　寫　折圖　一鋪

前者と同一圖。蝦夷地御留守居所備付のものにて部屋割變更の附箋二三あり。

一二、箱館御屋敷御構圖　寫　折圖　一鋪

文化十三年七月改之圖。上山半右衛門手寫。

一三、南部津輕受持場所改圖（箱館御持場境津輕家取替繪圖寫）　寫　折圖　一鋪

安政二年六月寫。上山半右衛門舊藏。

一四、箱館表縮圖　寫　折圖　一鋪

函館圖書館藏『南部藩蝦夷地經營圖』の内の表記圖一枚と同じ。

一五、箱館近海亞人測量圖（74×52.5Cm.）　寫　折圖　一鋪

安政三年箱館入港の亞米利加船の測量せしものを、上山半右衛門の模寫したもの。函館圖書館に本圖と同一なるものを藏す。

一六、箱館辨天崎御台場圖　寫　折圖　一鋪

文久二年竣成の辨天崎砲臺平面圖。彩色鮮明好く其全貌を寫せり。

一七、箱館表並辨天崎山脊泊押付立待御台場御廻相成候御筒雛形並二十四斤御筒雛形　寫　八枚

南部藩御預りの表記各御台場備付大砲原寸圖。

一八、砂原陣屋分見圖　寫　折圖　一鋪

安政二年南部藩蝦夷地警衛を命ぜられ仝三年砂原に壘を築設し木材を南部より輸送し來り家屋を建つと云ふ。本圖は即ち一間一分積の平面圖にして上山半衛門舊藏。平常戍衛の兵約三十人なりしと。

一九、エトモ御陣屋之圖　寫　折圖　一鋪

安政二年箱館に元陣屋を置き、仝三年繪鞆（室蘭）ペキリウダに出張陣屋を築く。即ち其の見取圖にして、安政四巳八月御目付上山半右衛門手寫する所なり。

二〇、北蝦夷地西海岸ホヱチセ魯西亞人石炭掘採圖　寫　折本　一帖

二一、亞米利加人栗濱上陸の圖　寫　折圖　一鋪

嘉永六年六月、亞墨利加水師提督彼理、兵艦四隻を以つて浦賀に至り通商交親を求む。幕府戒嚴して接使の館を栗濱に起し、浦賀奉行に命じて其國書を納る。本圖は即ち當時入港の黑船二隻及海岸警衛の狀況を寫したるもの。

新渡戶仙岳所藏（盛岡市仙北組町）

二二、蝦夷地日記　原　半紙　一冊

文化四年六月鐵砲小奉行仰付られ渡海、蝦夷地警衛の衝に當れる菊地作左衛門自筆の勤中日記草稿。

二三、北地警備關係帳並圖物　寫　六通

文化八年箱館詰人名、仝十一年子モロ詰人名、箱館勤番勤方控等關係史料六通並箱館警備陣立之圖三枚。

二四、魯艦小泊に來りし時の文書　寫　書狀体　六通

二五、根諸人數組立帳外警備文書　寫　書狀体　八通

二六、三令御合圖　寫　美濃　一冊

御纏御相圖、螺貝御相圖、太鼓御相圖、鉦御相圖等を記す。

二七、御城下安政五歲午之夏身帶帳　寫　美濃　五冊

安政五年現在の南部藩職員錄。

文部省維新史料編纂事務局（東京市）

二八、箱館行御用留　原　半紙　十冊

明治元年二月より四月迄箱館在勤を仰付られたる橋本悌藏御用留。

二九、稻川仁平諸書留　原　半紙　十四冊

南部他吉所藏（函館市五稜郭町）

三〇、箱館詰御番頭葛西正兵衛遺品　二七点

ア、能笛＝正兵衛愛用品　一本
イ、ギヤマンの壺　一個
ウ、鐵扇＝正兵衛使用　一本
エ、正兵衛肖像＝寫眞生板　三枚
オ、茶筒＝正兵衛自彫の繪あり。　一基
カ、葛西系譜　一冊
キ、御精進日書＝南部家累代藩公の命日法名　一枚
ク、舊南部領地圖　一鋪
ケ、盛岡御城下地圖　一鋪

コ、寶暦年間盛岡地圖　一鋪
サ、大日本行程大繪圖　一鋪
シ、函館の景＝正兵衛筆　一鋪
ス、函館警備區城地圖＝正兵衛手寫　一鋪
セ、城郭設計圖　五鋪
ソ、討陣の圖　一枚
タ、オランダ軍艦の名刺　一葉
チ、信民公（正兵衛弟七戸藩主）より正兵衛への書簡　一通
ツ、南部大膳太夫より正兵衛への書簡　一通
テ、南部左近（正兵衛の祖父）より雅樂助殿（正兵衛の父）への書簡　二通
ト、三戸雅樂助書簡　一通
ナ、武鑑＝安政時代　五冊
ニ、和歌＝正兵衛自詠　二首
ヌ、單騎甲冑口傳聞書　一冊
ネ、文書早引＝正兵衛手澤本　一冊
ノ、達磨の圖＝正兵衛筆　一枚
ハ、利用公幼時の戯畫　一枚
ヒ、岩手山＝三十代行信公作　一冊

岩手縣立圖書館所藏（盛岡市）

三一、南部家記錄拔書　寫　半紙　一冊

寛永二十一年四月二十九日より明治二年十二月二十七日に至る二百二十七年間の記錄拔書。

阪牛祐直所藏（小樽市入舟町）

三二、根室千島兩國鄕土史　阪牛祐直輯　活　菊　一冊

文化年中、魯國の千島根室を冐せし時の事蹟を錄せし鄕土史。

三三、敵國降伏＝篇額寫眞　一枚

文化年間、下田將監紗那神社に奉納したる篇額にして現在札幌神社戰利品陳列館内にあり。

村田健次郎所藏（盛岡市鷹匠小路）

三四、南部美濃守書翰　卷子本　一卷

安政年中、南部美濃守利剛より南榮千代に宛たる書翰。

三五、箱館市中細繪圖面　寫　折圖　一鋪

嘉永末年のものにして市勢を詳細に知るに足る。

三六、ペケレウタ陣屋工作中材木職人方下小屋の圖　原　折圖　一枚

南部藩蝦夷地御陣屋御取建の爲渡海したる大工小頭村田宗吉の書留めたるもの。

◈村田專三郎藏品（函館市元町）

三七、南部陣屋に就いて　孔　半紙　一冊

昭和九年五月十九日盛岡市役所樓上に於て行ひたる村田專三郎の講演筆記。南部史談會第七號掲載。

三八、蝦夷地陣屋に就いて　活菊　一冊

北海道倶樂部第三卷第二號の內。高倉新一郎記。蝦夷地警備の爲奥羽諸藩に於て築設したる陣屋に關する顚末書。

三九、圖案より見たる國旗　活菊　一冊

帝國工藝第六卷第三號の內。水谷伸吉記。記事中蝦夷入地御用船に用ひたる旗印は錦地に日の丸及蝦夷御用の文字あり、寛政以降幕命に依る渡海御用船の旗印の寫眞版あり。

四〇、新版宮雛形　寫　半紙半　一冊

佐々木善太郎の署名あり。同人は南部藩御普請懸にて各地の南部陣屋建物の設計家にて、建築當時現場廻りせし人なり。

四一、南部陣屋考　活菊　一冊

村田專三郎著。寛政より維新當時に亘り南部藩が蝦夷地警備のため各地に陣屋を構築したるものにて、南部陣屋事蹟顯彰會記念出版物。

四二、蝦夷地の警備と南部陣屋の事蹟に就いて　寫　半紙　一冊

村田專三郎が昭和十二年五月九日表記演題にて放送したる講演の原稿。

四三、在函館高龍寺供養碑々文並寫眞　一組

天保五年六月二十四日南部藩北地改役志村善右衞門を派し、石工十人を連れ箱館に遣し、往時蝦夷地警衞の途上、病死或は溺死せし者の爲に供養の碑を箱館高龍寺、實行寺、泉澤大仙寺等に建て弔はしむ。本文は卽ち高龍寺々內の碑文寫並寫眞也。其他實行寺及大仙寺の碑は現在所在不明。

四四、南部系譜　寫　半紙　一冊

南部家の系圖にして寛政六年迄の累代藩公の業蹟を記せり。

四五、口上書　寫　半紙　一冊

箱館町方取締たりし代島剛平が、南部陣屋箱館詰藩士の守備したる辨天台場築設の必要を力說し、箱館奉行所に建白せる口上書寫。代島家藏書に依る。

四六、辨天台場　寫　眞　二葉

四七、村田宗吉昌賞關係資料　寫　四通

御扶持被下人數書、御扶持米小手形証文、御扶持方御証文、應要考の四通寫。村田宗吉は南部藩大工小頭にして後幕領時代南部陣屋構築のため蝦夷地に渡り各所の土工、建築を担當せり。

四八、根室御陣屋之圖　寫　折圖　一鋪

前幕領時代の繪圖。伯爵南部家藏品複製　以下五三迄同斷

四九、エトロフ御陣間數の圖＝酉ノ春改　寫　折圖　一鋪

五〇、クナシリ地圖面間數ノ圖＝文化六年四月　寫　折圖　一鋪

五一、根室勤番所御本家ノ圖＝文化時代　寫　折圖　一鋪

五二、ネモロ新御小屋＝文化時代　寫　折圖　一鋪

五三、箱館御屋鋪地圖＝文化十三年　寫　折圖　一鋪

五四、東西蝦夷地公私分堺色分繪圖＝安政二年頃　寫　折圖　一鋪

後幕領時代奥羽諸藩に蝦夷地を分堺警備せしめたる際の色別繪圖面。函館圖書館藏品複製。

五五、箱館水元御陣屋之圖＝安政二年　寫　折圖　一鋪

後幕領時代に於ける南部藩函館水元陣屋繪圖。伯爵南部家藏品複製。

五六、松前東蝦夷地ヱトモヘケレウタ出張御陣屋之圖＝安政二年　寫　折圖　一鋪

後幕領時代の繪圖。伯爵南部家藏品複製。　以下五八迄同斷

五七、東蝦夷地ヱトモ　ヱトモ崎字ホロシレトル崎　御臺場御構之繪圖＝安政二年　寫　折圖　一鋪

五八、東蝦夷地ヱトモ　字ヲヱナヲス遠見所　字ワシヘッ警衛所　二ヶ所之圖＝安政二年　寫　折圖　一鋪

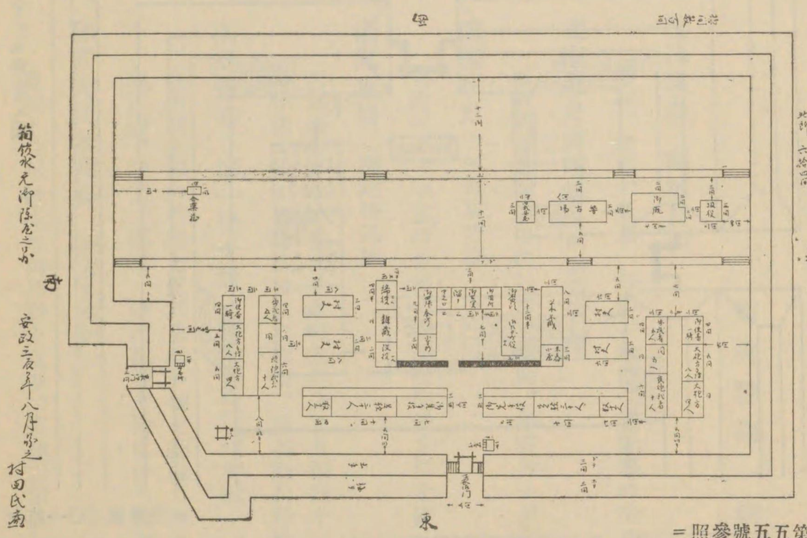
五九、箱館御陣屋附秣場の圖＝安政時代　寫　折圖　一鋪

後幕領時代箱館元陣屋附秣場として上磯奥竹切澤の地を拜領せし時の繪圖面なり。伯爵南部家藏品複製。

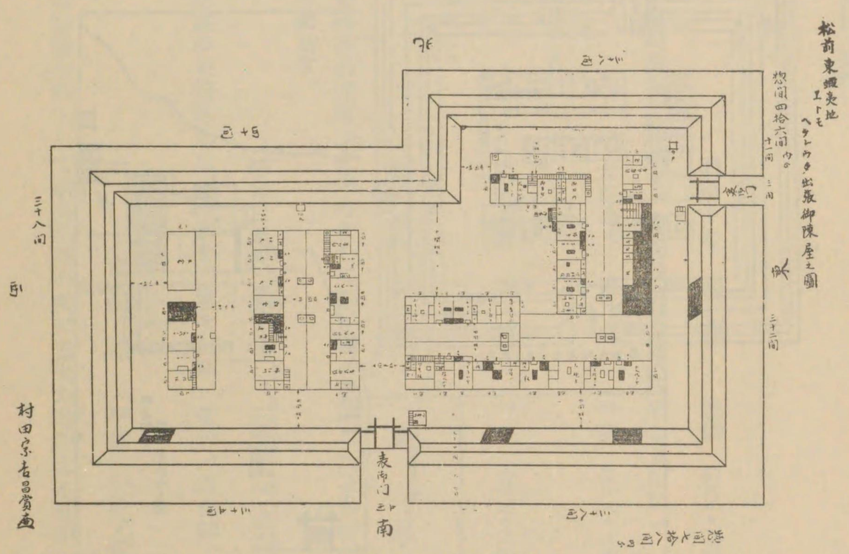
六〇、箱館御陣屋惣御構圖＝萬延元年六月改　寫　折圖　一鋪

南部陣屋箱館元陣屋の最後期の繪圖面。

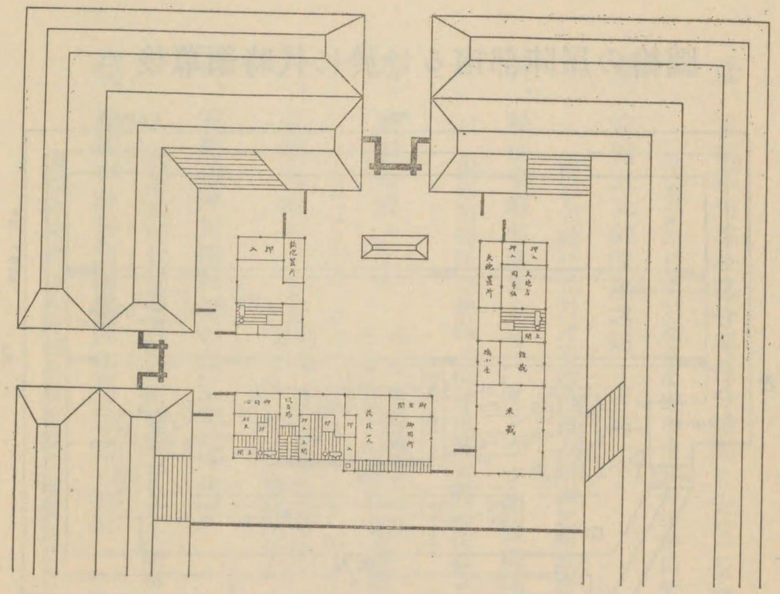
後幕領時代に於ける南部陣屋の繪圖



＝第五五號參照＝

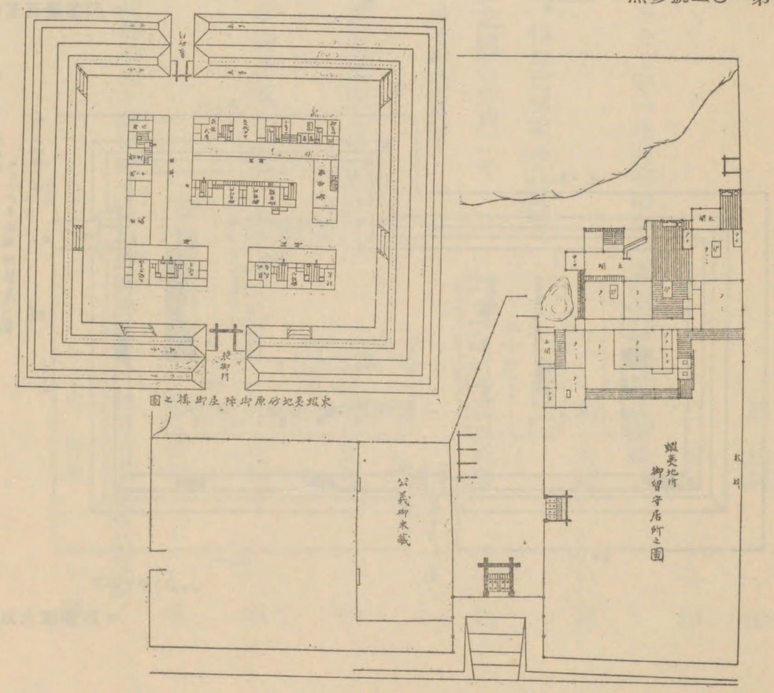


＝第五六號參照＝



東蝦夷地ヲシヤマンヘ陣屋之圖

＝第一〇二號參照＝



東蝦夷地箱館奉行所之圖

蝦夷地御役所之圖

公義御米藏

＝第一〇二號參照＝

函館圖書館出品目錄

◇蝦夷警衛一般史料

六一、北海道志　開拓使編　明治十七　活　菊　三五冊　〇〇〇八・一〇三二

總叙、地理、風俗、外事、物産、雜記等に分ち本道の沿革を記述す。開拓使廢使後大藏省より出版。

六二、北海道史並附錄　河野常吉編　大正七　活　菊　三冊　〇〇〇八・一〇四三四

維新前の北海道史にして、地圖、年表各一冊を附錄とす。

六三、函館區史　河野常吉編　明治四四　活　菊　一冊　〇〇〇八・一〇四三四

明治四十三年迄の史料。函館史中最も信を置くに足る。

六四、南部史要　菊地悟郎編　明治四四　活　菊　一冊　二一三五・一一三

南部藩七百年の盛衰を太祖光行公より第四十一世利恭公迄藩主を中心として編年體に記述したるもの。蝦夷警備に關する記事は主に利剛、利恭兩公時代に終始す。

六五、南部叢書　第一至十冊　南部叢書刊行會編　昭和二至四　活　菊　一〇冊　二一三五・四〇〇一

舊南部藩領内の鄕土代表史料一切を網羅したる稀覯の史料にして、全冊を、風土記類、史料、傳奇類、地理記行、詩文、學事、漂流記等十冊に分ち收む。

六六、休明光記並附錄　羽太正養輯　原美濃　四種　〇〇〇八・五五三〇

寛政十一年蝦夷地御用掛となり、享和二年以後は箱館奉行として蝦夷經營の衝に當りたる羽太正養が、同

期間中輯錄したる公私文書にして、蝦夷公邊事情は本書に依つて全し。別に『休明光記附錄』『休明光記附錄別卷』『休明光記附錄別卷一件物』の三種あり。

六七、江戸幕府諸役御褒美被下控　　寫　美濃　一冊　〇〇二〇〇・〇三五

元祿十二年より安政三年に至る百五十余年間中幕府より諸役人へ御用濟の節下し置かれた御褒美帳にて、書中『蝦夷地御用格別骨折云々』の記載散見す。

◇　寛政年間蝦夷警衛史料

六八、異國亞魯齊人來朝の事　　寫　半紙　一冊　〇〇三三〇・〇〇六六

寛政五年魯使ラックスマン箱館來航後に於ける南部津輕兩藩の福山警備始末を記す。

六九、東蝦夷地御用に相成候節の諸御達書　　寫　美濃　一冊　〇〇三三〇・三〇〇四

寛政十一年一月幕府は東蝦夷地中浦河より床知迄を七ヶ年假りに直轄し、南部津輕兩藩をして警備に當らしむ。即ち當時の御達書寫なり。

七〇、蝦夷魯西亞賊來記　　寫　半紙　一冊　〇〇〇八・〇〇五八六

寛政十一年並文化三、四年度の魯船來寇に當つての南部津輕兩藩出陣警衛に關する史料を收む。

七一、北夷談　松田仁三郎著　　寫　半紙　三冊　〇〇三三〇・六三三

『松田氏四六筆記』とも稱す。即ち寛政十一年より文政五年に至る二十四ヶ年間蝦夷地の事に當り、其間十九年蝦夷地に在勤したる松田傳十郎の勤役日記。別に附圖二帖を藏す。

◇　文化年間蝦夷警衛史料

七二、蝦夷雜記　　寫　半紙　一冊　〇〇三三〇・〇三三三

文化三、四年度の魯艦來寇に關する奥羽各藩出陣警衛覺並勤番狀体を記載す。

七三、蝦夷志錄　　寫　半紙　一冊　〇〇三三〇・〇三三

文化四年魯船來寇及蝦夷警衛に關する奥羽各藩の往復文書、各藩人數及備立等を記載す。

七四、北邊紀聞　　寫　半紙　六冊　〇〇三三〇・五一五

文化四年の魯寇に依る北方警備關係の公私文書を輯錄したるものにて當時の情況を知る好個資料たり。

七五、千葉政之進筆記　　寫　半紙　一冊　〇〇三三〇・三五六

文化四年擇捉島魯寇に際し同島の守備に當りし南部藩士千葉政之進の取調書。

七六、蝦夷紀聞　　寫　半紙　七冊　〇〇三三〇・〇三二

文化年間の千島、樺太魯寇事件竝に其警衛善後策に關する幕府及各藩の公文書類を日附順に輯めたるものにて、終りに警備各藩の人數書、論功行賞書等を記せり。

七七、クナシリ騷動消息　　寫　半紙　一冊　〇〇三三〇・一〇〇一

文化四年四月魯船擇捉クナシリ來寇に就き松前津輕南部各藩よりの届書。

七八、文化度南部藩國後出陣關係圖　　折本　美濃　一帳　〇〇三三〇・五九一

七九、公事方御用留　　寫　半紙半　一冊　〇〇〇八・二三〇三

文化七年以後文政の初めに至る公儀御用留にて、萬延元年箱館奉行支配役並となりたる加藤善太郎知章の

手記する所。

八〇、文化八年魯西亞船渡來南部侯御屆書　寫　半紙　一冊　〇〇三三〇・四〇〇二

文化八年六月二十一日南部大膳太夫より松前奉行其他に差出したる魯船來航一件屆書。

八一、松前騷動の時雜費　寫　半紙　一冊　〇三三〇・六〇〇五

異國船來寇の節出陣警備の爲めに要したる奥羽諸藩の諸掛並陣屋取建方に費したる諸雜費等を松前藩御勘定所に於て書留めたる記錄。

◇天保年間蝦夷地勤番心得書類

八二、蝦夷地勤番心得向其他　寫　半紙　一冊　〇〇三三〇・〇三三一

蝦夷地勤番の者の心得べき規則、罰則等を記載したるもの。

八三、天保年中蝦夷地勤番心得向　寫　半紙　一冊　〇〇〇八・一六八一九

天保六、七兩年度及弘化元年の三回に涉りて發せられたる蝦夷地勤番に關する心得書。木村源吾文書の內

八四、蝦夷地勤番の者共心得向　寫　半紙　一冊　〇〇〇八・一六八一九

文政四年十二月七日松前藩復領の際幕府より蝦夷經營に關する心得方指令あり。本書は即ち條文の寫にして幕府の執れる蝦夷警備の方針を覗ふ事を得。木村源吾文書の內。

八五、モルラン、アツケシ異國船一件書　寫　半紙　一冊　〇〇〇八・一六八一九

天保十五年十月外國船室蘭海に來泊、同二十六日厚岸に來泊、爲に出兵して之に備ふ。即ち當時の一件書寫なり。木村源吾文書の內。

◇安政年間蝦夷警衛史料

八六、蝦夷地御警固御記錄　寫　美濃　一冊　〇〇三五〇・〇〇〇七

蝦夷地並箱館表御警固に關する幕府の申渡書並諸藩屆書寫を安政二年三月より同三年六月迄の分を輯錄す

八七、仙台、秋田、津輕、南部諸藩家來伺書　寫　美濃　一冊　〇〇三五〇・六〇〇三

安政二年三月蝦夷及箱館表警衛に當れる奥羽各藩家來より、陣屋取建、異國船處置等に關し差出したる伺書類を輯む。

八八、津輕藩箱館警衛顚末外二篇　棟方悌三編　寫　半紙　一冊　〇〇三三〇・六〇〇六

安政二年津輕藩蝦夷警備に關する史料を輯錄す。書中、明治元年八月南部藩箱館元陣屋燒失の記事あり。

八九、北陲開業提要　大橋並八郎錄　原　美濃　一冊　〇〇三五〇・〇〇五

後幕府直轄時代に於ける箱館奉行所開設當時の蝦夷地經營に關する諸書付を收む。大橋並八郎手錄本にして「大橋藏印」あり。

九〇、蝦夷地御開拓諸書付諸伺書類　原　半紙橫半　一冊　〇〇〇八・二一〇八六

安政元年以後の箱館奉行所に於ける表記書類五十七通を輯め幕府に呈出したるものにして、後の箱館奉行杉浦兵庫守誠の手錄本。

九一、松前持場見分留　新渡戶十次郎輯　寫　半紙　一冊　〇〇三五〇・四三五

南部藩御勘定奉行新渡戶十次郎が安政二年四月二十五日箱館並東蝦夷地南部藩持場見分の爲渡海表目付兼帶にて勤務したる當時の留書寫。原本は新渡戶文庫所藏。

九三、東　徼　私　筆　成石修著　寫　半紙　一冊　〇〇三九〇・四八〇

安政四年幕府の吏に隨つて江戸を發し箱館、松前、宗谷、樺太、釧路等を經て蝦夷地を一周し箱館に至り歸府したる成石修の道中日記、各地に於ける當時の警備、勤番狀況を覗ふを得。

九三、盛岡より東蝦夷地迄の日記帳並道中記　村田宗吉著　寫　美濃　二冊　〇〇三九〇・六八三

東蝦夷地エトモ御陣屋御取建の御用を蒙り安政丙辰三年出張渡海したる大工小頭村田宗吉の旅日記。

九四、箱館詰公儀者ヨリ御觸面留帳　寫　半紙　一冊　〇〇〇八・三六一〇

安政三辰年より同末年迄の表記御觸書留にしてスツヽ詰津輕藩士對馬刑部の手寫せるものなるも、當時の蝦夷地勤番心得を知る可し。

◇維新前後南部藩關係史料

九五、蝦　夷　戰　記（復古記外記の内）　活　菊　一冊　〇〇三五〇・三三七

明治元年十月十九日榎本釜次郎品川沖脱走に端を發する函館戰爭に關する史料を輯錄したるものにして當時の奥羽各藩の處置動向を覗ふ事を得。

◇南部藩蝦夷地警衛關係繪圖

九六、函館沿革圖　函館圖書館編　石　折本　一帖　〇〇三九〇・一〇二三

文化二年より明治十年に至る函館市街變遷圖。南部藩御構地、拜領地、陣屋等の變遷を知るを得。

九七、南部家騷動記（弘化三未年十月の百姓一揆）　寫　半紙　一冊　〇〇〇八・五五五九一

函館圖書館附設馬場文庫藏品。　以下一〇一迄同斷

九八、文化四丁夘松前箱館江急御固御人數渡海一條　寫　半紙　一冊　〇〇〇八・五五五九一

九九、文化四丁卯九月箱館於大森之濱異國船來着之砌南部大膳太夫樣御堅御陣屋之圖　寫　一軸　〇〇〇八・五五五九一

一〇〇、文化四年九月五日松前立石原津輕越中守樣御陣立備の圖　寫　一軸　〇〇〇八・五五五九一

一〇一、文化四年丁卯八月四日於箱館七重濱佐竹右京太夫御陣立之圖　寫　一軸　〇〇〇八・五五五九一

一〇三、南部藩蝦夷地警衛圖　原　切圖　二十三枚　〇〇三九〇一・〇四九五

南部藩持場箱館表並東蝦夷地經營圖にして安政年間のものなるべし。內容左の如し。

箱館表之圖、箱館山掛圖。箱館濶內龜田ヨリ七重濱迄ノ圖。箱館濶內三ツ森ヨリ戸切津川迄ノ圖。箱館濶內三ツ谷ヨリ矢不來迄ノ圖。箱館濶內茂邊地ヨリ當別迄ノ圖。箱館表水元御陣屋縮圖。箱館御陣屋御引請地所繪圖（一間二分積）。箱館表縮圖。東蝦夷地山脊泊ヨリテケマ迄ノ圖。東蝦夷地ヌマシリヨリ野田追崎迄ノ圖。東蝦夷地野田追ヨリニクルウトル迄ノ圖。東蝦夷地シツカリヨリヲサルヘツヌエントモ崎迄ノ圖。東蝦夷地サルヘツヨリフシコヘツ迄ノ圖。東蝦夷地エトモ字ホロヘケレウタ陣屋建家ノ圖。東蝦夷地砂原陣屋建家ノ圖。東蝦夷地ヲシヤマンベ陣屋建家ノ圖。東蝦夷地ホロヘケレウタ御陣屋見立場所圖。東蝦夷地エトモ御番所ノ圖。東蝦夷地エトモ御臺場御番所ノ圖。蝦夷地附御留守居所ノ圖。箱館表並東蝦夷地縮圖。勤番所土居圖。

一〇三、東蝦夷地海岸圖台帳　長澤盛至筆　原　美濃　一冊　〇〇三九〇一・〇四一三

南部藩所管東蝦夷地箱館より幌別迄の沿岸見取繪圖にして安政二年十月筆。

一〇四、東蝦夷地より國後へ陸地道中繪圖　楢山隆福筆　寫　折本　三帖　〇〇三九〇一・四八七

南部藩士たりし楢山隆福が文化六年久名尻勤番を被命て渡海、翌年七月陸路歸藩したる際の道中繪圖。

一〇五、箱館町之繪圖　(26×40cm)　寫　折圖　一鋪　〇〇三九〇一・一〇〇四

安政年間の箱館の見取圖。當時の南部藩御陣屋等も見ゆ。

一〇六、安政度宇須繪鞆風物圖　卷子本　寫　一卷　別　置

畫中ホロシントル臺場、ヱトモ會所、ヘケレウタ南部美濃守出張陣屋等の繪圖あり。白井金鳩寫。

一〇七、亀田一圓切繪圖　寫　切圖　三枚　〇〇三九〇一・一五一三

文久三年辨天砲臺完成直後の市街圖。八十餘年前の箱館の全貌を知るを得と共に當事の南部藩拜領地、御構地、元陣屋、各臺場等の位置狀体鮮明なり。

一〇八、箱館之圖　(109.5×78.5cm)　寫　折圖　一鋪　〇〇三九〇一・一〇一三

元治年間の市街展望繪圖。

一〇九、辨天岬臺場　寫　眞額　二面　別　置

文久三年竣成、明治二十九年破壞。

一一〇、立待台場　額　一面　別　置

箱館立待岬に取立てたる台場寫生圖。蠣崎波響筆。

一一一、箱館通寶並枝錢　一組　別　置

安政三年十一月、箱館谷地頭に錢座を設け翌四年四月鐵錢を鑄造、同六年に至る迄前後五ヶ年に三十五萬五千貫を鑄たり。即ち當時錢座に於て使用せし職工は大部分南部より來りし者なりと。

附錄

皇太子殿下御成婚記念

函館南部會寄贈圖書目錄

函館居住の、舊南部藩出身者を以つて組織せる、函館南部會同人、大正十二年一月二十六日、皇太子殿下御成婚記念として、函館に關係深き、南部藩の鄉土史料を蒐輯して、函館圖書館に寄贈せらる。今、本展覽目錄を刷行するに當り、特に之を附載して其芳志を留む。

一、出雲路日記　寫　美濃　一冊

二、伊香保乃道行振　寫　美濃　一冊

三、筑波子家集（縣內遺稿第三集）　寫　半紙　一冊

以上三種、南部藩國學者江刺恒久自寫本。各卷卷頭に『江刺文庫』の藏印あり。

四、石原正明隨筆　寫　美濃　六冊

辛酉隨筆（上、下）、壬戌隨筆、癸亥隨筆、年々隨筆（上、下）の六冊。

五、歌意考、文意考　寫　美濃　一冊

六、唐物語提要　寫　美濃　一冊

七、嚶々筆話　寫　半紙　一冊

八、女郎花物語　寫　半紙　一冊

以上五種南部藩國學者游座千尋自筆本。

九、貴明無明抄拔書阿佛夜乃鶴　寫　半紙半　一冊

南部藩國學者三輪秀福（杉齋）自筆本。和歌近古二躰に關し論じたる書。杉齋は天保七年三月十日行年七十五才にて沒す。

一〇、季吟俳偕內秘集　寫　半紙　一冊

南部藩俳人三柳舍鶴雄自筆本。卷尾に『天保十二丑年皐月朔日得一子より戀請同九日寫畢つるを』の奥書あり。

一一、發句類從　青願盧了輔編輯　氷黑菴寥松刪定　寫　半紙半横帳　二冊

南部藩俳人大沼嵐水の自筆本。卷末に『天保十五年辰ノ極月寫之雪太庵嵐水大沼半藏在判』の奥書あり、卷頭には『嵐水』の朱方印を捺す。

一二、利直公岩崎大阪兩御出陳着到　寫　美濃半横帳　一冊

享保十八年發丑三月八日寫了本。

一三、岩崎軍談　寫　美濃　一冊

一四、天保八年九月二日將軍宣下御大禮ニ付若殿樣（信侯公）御登城御行列　寫　半紙　一冊

一五、秋田杉直物語　卷之三及四　寫　半紙　零本

一六、元正間記　卷一至七、十三至十五　寫　美濃　零本

南部藩家老北繼序手寫本にて卷尾に『天保十丁亥年十月南部繼序手書』とあり。卷八より十二迄を欠く。

一七、奥南舊指錄　卷之一至三　附錄深秘抄　寫　美濃　四冊

一八、南部舊雜記　寫　美濃　一冊

一九、舊南隨筆　寫　美濃　一冊

新渡戸仙岳舊藏本。卷頭に『新渡戸仙岳』の藏印あり。

二〇、話聞雜記　岩手山人藤吉傍著　原　美濃　一冊

二一、南部權現記（和賀郡岩崎一揆之由來並御勢揃）　寫　美濃　一冊

二二、乘馬法（南部藩故實）　原　卷子本　三卷

慶長拾一年九月十八日附河村長門守忠明より松下甚六への傳書。

二三、下馬法（南部藩故實）　原　卷子本　一卷

鈴木伊左衛門保慶傳書。

二四、相馬法ノ中相眼法（南部藩故實）　原　半紙折帳　一帳

二五、鷹毛學文之書（南部藩故實鷹之傳法）　寫　美濃半横帳　一冊

二六、武門要鑑抄　原　美濃半　一冊

南部藩軍學書。上杉謙信輝虎朝臣要門的傳十五世權征軍師豁達剛弱栃内與兵衛より小野寺傳八に傳へたるものにて、卷尾に『天保十二年辛丑歳十一月吉祥日栃内與兵衛逢吉花押』の奥書あり。

二七、軍禮　原　半紙　一冊

南部藩軍禮法。栃内與兵衛より小野寺傳八に傳へたるもの。奥書に『上杉謙信輝虎朝臣要門的傳十五世權征軍師豁達剛弱栃内與兵衛逢吉花押、天保十三年壬寅歳十月吉祥日』とあり。

二八、四季禮法　寫　半紙　一冊

南部藩年中行事。

二九、名所見聞記　寫　半紙半横帳　一冊

三〇、諸書禮秘傳　原　半紙縦半折　一冊

天保五年十一月朔日德田邑名主城幸治郎記。

三一、惡魔道切法（南部藩故實）　原　美冊折帳　一帳

昭和十二年五月三十一日印刷
昭和十二年六月十五日發行

編輯兼發行人　岡田健藏

印刷所　函館市大黑町五六番地　太陽舍

印刷人　松下佳一郎

發行所　市立函館圖書館

733
187

733
185